

僕はウイスキーをハムサラダか菓子かを食ひ乍ら何杯のみ續けた。

「ムシユ・リヨウリヤ

下駄ダンスを教えてやらう」

此處でも僕は焼蕪な大聲で、亂暴な歌を唄つた。

慶應の學生が、僕をガードの下の怪し氣な料理屋へ、それから引つパツて行つて、蒸した蟹を僕は其處で食つた。

電車に乗ると頭が割れる程疼いた。

凝乎腰掛けてゐる事が出来ない。

僕は観音經をドナリ乍ら、早稲田の大通りを歩るいて、聲が枯れたので途中蕎麥屋へ這入つて生卵を四つばかり一週にうどんに打つ掛けて食つた。

源兵衛の野田の間借してゐる家へ行つたら、野田は居なかつた。活動へでも行つたのだろう。

僕は其の敷き放してある布團の中へもぐり込んだ。

野田の歸つたのは十一時過ぎだつた。